

平塚から大山への電車敷設計画

大正15年9月10日 平塚を中心にし 鉄道と電車新計画

神中鉄道は平塚駅を起点に大久保都市住宅を経て伊勢原町経由し大山町に至る線路を計画の一方伊勢原厚木町間を延長し横浜に通ずる計画のもとに9日から測量を開始したが尚ほ金目川の砂利採取を目的に平塚秦野間の旅客運輸する金目川電車が株式募集中である

神中鉄道は1925(大正14)年 省線平塚停車場から伊勢原を経由して、厚木停車場までの鉄道敷設の免許を得ています。合わせて伊勢原から大山までの免許も取得しました。

1926(大正15)年には、平塚・大山間の路線計画を立てています。まだ計画段階です。横浜と厚木間の全線を開通させたのは、1933(昭和8)年のことでした。厚木から相模川を渡り、伊勢原から平塚、大山に続く鉄道敷設を完成させることは、横浜と県央地区との経済的な結びつきが強化されることを意味しています。

一方、小田原急行電鉄は、1927(昭和2)年に新宿・小田原間を開業させ、神奈川県中央部を横断する交通ルートが確立されました。

昭和4年1月12日 大山平塚間に電車敷設計画で三町長結びつけの協議

大山町から伊勢原を経て平塚町に至る四里半の県道に電車を敷設する計画有りて之が促進運動を開始する準備として沿道の町村長他十数名の有力者が近く伊勢原、大山、平塚三町長結びつけの協議会を開催する。

大山頂上に架空鉄道建設か

大山町はケーブルカーを建設する方針の下に先ず架空鉄道を建設して空中運搬で材料を集める計画濃厚となり之が実現を期して大山町長は上京中である

大山・平塚間に電車を敷設する事業は、1925(大正14)年に免許を得ています。この地域の交通機関を整備することは、観光資源である大山観光から得られる経済効果について、神中鉄道のみならず関連する地元にあっても重要課題と認識されていました。この期にあつて、何らかのアクションがあつたと思われます。地元では協議会が持たれています。

架空鉄道とは、空中運搬とありますから、まずはロープウェイを建設し、ケーブルカー建設の資材を搬送する計画と読み取れます。

昭和4年3月3日 平塚大山間の鉄道敷設計画促進沿道町村の運動

鉄道敷設計画は10数年前乗合自動車事業に先立って計画されていた泡沫会社か権利金目的の会社のため実現できず現在は神中鉄道株式会社が敷設権を持っている

平塚・大山間の交通機関の新設には、利権問題が絡んでいたのでしょうか。鉄道が敷設できない理由として、「泡沫会社」、「権利金目的」の会社などと評されている。

神中鉄道が敷設権を取得したのは、1925（大正14）年です。取得先は、相陽鉄道（株）からでした。

昭和5年4月22日 平塚駅を起点に無軌道電車 既設自動車を買収一括して敷設の計画提唱される

大平塚町をめざす 厚木方面へ9哩7分 秦野町へ9哩 伊勢原町へ6哩 計24哩7分を運転する此の建設費は1哩わずか2万余円しか要さぬので約60万円の資本金があれば完成する運賃も1哩3銭つまりバス運賃の2分の1で十分維持可能注目されている

無軌道電車（無軌条）電車：法的には電車に扱われていましたが、トロリーバスのことです。鉄道の敷設ではないため、建設資金は安価であり、加えて、運賃も安価に設定することが可能であると判断されている。

昭和5年9月17日 平塚大山間の電車計画行悩む 権利を握る神中鉄道が敷設もせず放棄もせず

東海道と小田急線を連絡する最も有望せんとしてしばしば目論まれるが神中鉄道会社が権利を握って鉄道の敷設もせずさりとして権利を放棄もせず折角の中相談の宝庫の開発を阻害されているので沿道町村民の怨嗟の声の焦点となっている。殊に平塚町にとってはこの間における電車の開通は市政実施と重大な関係があるので再び促進運動の機運が濃厚となってきた

神中鉄道が、横浜・厚木間の全線を開通させたのが1933（昭和8）年でした。会社にとって、平塚・大山間に鉄道を敷設するメリットを得るには、厚木から伊勢原への鉄道延伸が実現されなければなりません。それには相模川を渡らねばなりません。莫大な経費が掛かります。工事が凍結されているような状態は、ここにあったと思われます。

平塚市の市制施行は1932（昭和7）年4月1日。電車の開通が待たれていました。

昭和6年8月20日 大山平塚間に電車敷設の計画

平塚大山線沿道の平塚、大野、木島、大田、伊勢原、高部屋、比々多、大山の町村長は伊勢原町役場に会し大山線に電車敷設の促進運動を開催する準備中である

平塚・大山の鉄道敷設は、幻のように過ぎていったのでしょうか。今もって電車は運行されていません。

時がたち、戦後の1956（昭和31）年、神奈川中央交通によるトロリーバスの敷設計画の申請がされました。しかし、路程の未舗装、道路の改修等々の経費を考慮した神奈川県は、1958（昭和33）年、特許を取り消しました。

今日、平塚と大山間は、伊勢原乗り換えの通常のバス路線として運行され、地域経済の支えとして、加えて、大山の歴史ある観光資源の交通機関として利用されています。